

令和 8 年 1 月 3 0 日

京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課

## 令和 7 年新規梅毒報告数～過去最多に次ぐペースで推移～

令和 3 年以降、京都市における梅毒報告数は毎年過去最多を更新していますが、令和 7 年は 1 1 7 件（速報値） で、過去最多であった令和 6 年の 1 2 5 件に次ぎ 2 番目に多い報告数であり、引き続き注意が必要です。

梅毒は、感染していても症状が軽くなったり消えたりする時期があり、感染していることに気づきにくい特徴があります。また、妊娠中に梅毒に感染していると母子感染を引き起こし、流産や死産、赤ちゃんに重い障害が残ることもあり注意が必要です。梅毒は自然には治らず、治療が必要です。

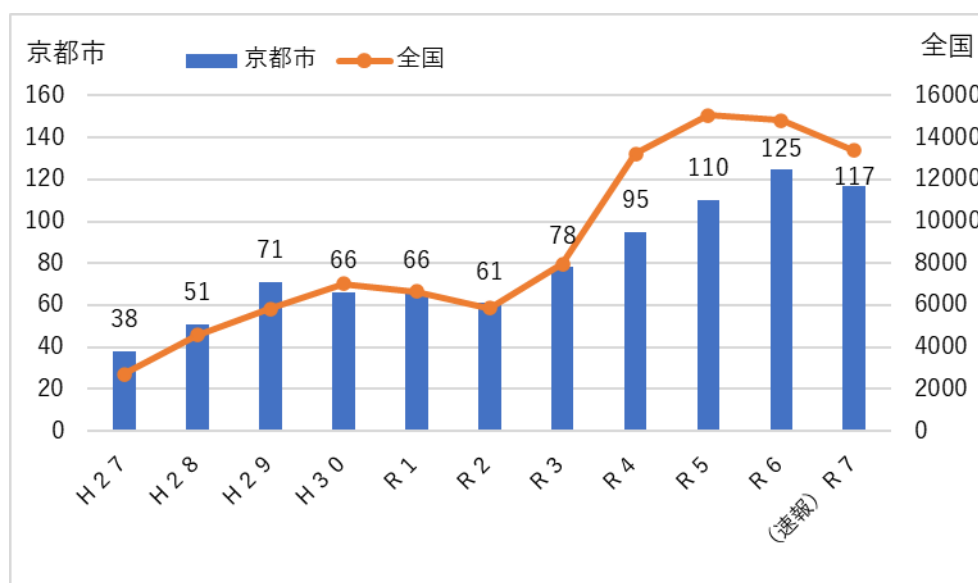
コンドームを適切に使用し感染を予防すること、気になる症状がある方は医療機関を早期に受診することが大切です。また、症状は無くても、感染が心配な行為があった方は、本市が実施する無料・匿名の「H I V ・性感染症検査」を受検してください。

### 【令和 7 年の新規報告数（速報値）について】

< 年次別報告数 >

年次	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (速報値)
京都市	38	51	71	66	66	61	78	95	110	125	117※
全国	2,690	4,575	5,826	7,007	6,642	5,867	7,978	13,221	15,055	14,829	13,530※

※ 令和 7 年（第 52 週）時点速報値



## < 感染経路別報告数 >

令和7年の報告（117件）のうち、感染経路が性的接触であるもの（105件）が約9割を占めています。また、性的接触のうち異性間（80件）であるものが7割以上を占めています。

	性的接触			針等の鋭利なものの刺入	静注薬物 常用	輸血・ 血液製剤	母子 感染	その他 (不明含む)	合計
	異性間	同性間※1	不明						
令和3年	60	8	5	0	0	0	0	5	78
令和4年	66	7	16※2	0	0	0	0	6	95
令和5年	72	15	10	0	0	0	0	13	110
令和6年	88	9	8	0	0	0	0	20	125
令和7年	<u>80</u>	<u>12</u>	<u>13</u>	0	0	0	2※3	10	117

※1 両性間の性的接触も含む

※2 経口接触（異性、同性不明）含む

※3 うち1件は先天梅毒

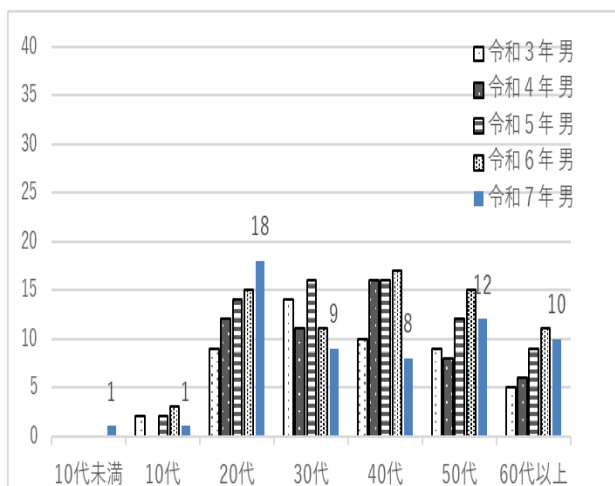
## < 男女別・年齢別報告数 >

男女ともに20代の感染者が最も多く、特に女性は感染者数の半数以上を占めています。妊婦の梅毒感染については2件の報告がありました。また、先天梅毒の報告が1件ありました。

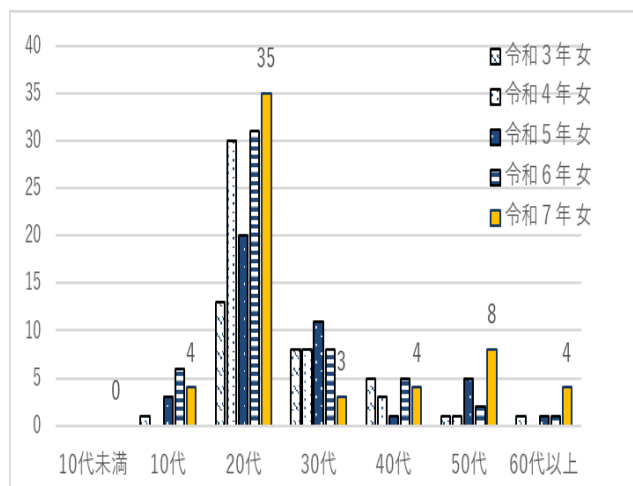
		10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
令和3年	男	0	3	9	15	10	9	5	51
	女	0	0	13 (1)	7 (1)	5	1	1	27 (2)
令和4年	男	0	0	12	11	16	8	6	53
	女	0	0	30 (3)	8	3	1	0	42 (3)
令和5年	男	0	2	14	16	16	12	9	69
	女	0	3 (1)	20 (2)	11 (2)	1	5	1	41 (5)
令和6年	男	0	3	15	11	17	15	11	72
	女	0	6 (1)	31 (2)	8 (1)	5	2	1	53 (4)
令和7年	男	1	1	<u>18</u>	9	8	12	10	59
	女	0	4	<u>35</u> (2)	3	4	8	4	58 (2)

注：（ ）内は、妊婦の件数（再掲）

## < 男性 >



## < 女性 >



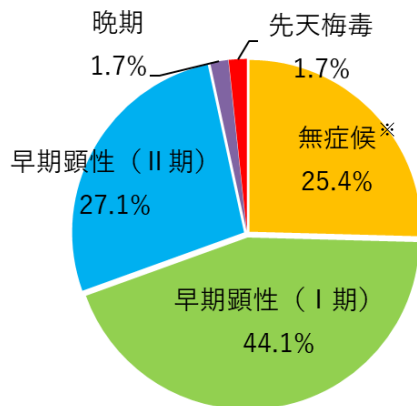
## <病型（梅毒の進行度）別の報告数>

男性は早期Ⅰ期（感染部位に赤いしこりが出現等）での報告が最も多く、女性は早期Ⅱ期（バラ疹の出現等）での報告が最も多く、女性は感染後時間が経ってから受診・診断される方が多い傾向にあります。

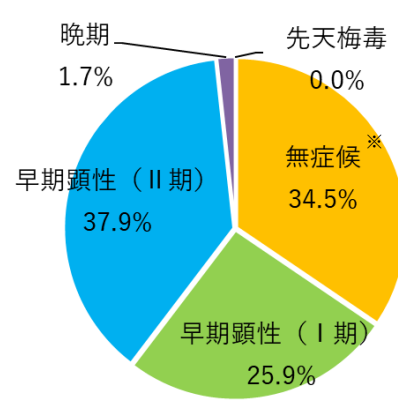
		無症候※	早期Ⅰ期	早期Ⅱ期	晩期	先天梅毒	合計
令和３年	男	8	27	16	0	0	51
	女	13	4	10	0	0	27
令和４年	男	9	28	14	2	0	53
	女	15	7	19	1	0	42
令和５年	男	14	29	24	2	0	69
	女	17	8	16	0	0	41
令和６年	男	16	34	21	1	0	72
	女	19	12	22	0	0	53
令和７年	男	15	26	16	1	1	59
	女	20	15	22	1	0	58

## 令和７年梅毒感染者の病型別割合

### <男性>



### <女性>



※ 無症状病原体保有者


## ○病期ごとの症状

梅毒は病期によって症状の出現する場所や特徴が異なります。症状が消失している期間も治ったわけではなく、病気は進行していきます。放置すると、心臓・血管・脳などに病変が生じ、障害が残る可能性があります。気になる症状があれば、泌尿器科や婦人科、産婦人、皮膚科などを受診してください。また、過去に梅毒に感染したことがある場合でも、再び感染する可能性があります。

**【Ⅰ期：感染後約３週間】**

- ・感染部位の赤いしこりや潰瘍（陰部や口の辺りなど）
- ・感染部位のリンパ節の腫れ


症状消失



**【Ⅱ期：感染後数か月】**


バラ疹（手のひら、足の裏、身体全体にうっすらと赤い発疹が出ます）

症状消失



**【晩期：感染後数年】**

- ・皮膚や筋肉、骨などの腫瘍
- ・心臓、血管、脳などの複数の臓器の病変



## 【「梅毒および性感染症に関する研修会」の動画配信について】

梅毒の感染拡大が継続している状況を踏まえ、京都市、京都府、京都府医師会の3者共催で、令和7年11月に「梅毒および性感染症に関する研修会」を開催しました。研修動画は、京都市医療衛生企画課チャンネル（YouTube）で令和8年3月2日（月）から配信予定です。

京都市医療衛生企画課チャンネル（YouTube）

<https://www.youtube.com/channel/UC79KYNnoTinNFCukVMUoNgQ>

京都市医療衛生企画課  
チャンネル（YouTube）

二次元コード



## 【京都市が実施しているHIV・性感染症検査について】

京都市では、無料・匿名で受けられるHIV・性感染症検査を実施しています。梅毒の検査は採血で行い、結果は約2週間後に面接にてお伝えします。心配なことがあれば、一度検査を受けてみましょう。また、感染の広がりを防ぐためにパートナーも受検することをお勧めします。

※すでに症状がある方は、医療機関を受診してください。

	平日昼間		平日夜間		土日	
受付時間	毎週 月曜日 (祝日除く)	午後2時～ 午後3時30分	月2回 月曜日 (祝日除く)	午後5時30分 ～午後7時	月2回 土曜日	午後3時15分～ 午後5時15分
					月2回 日曜日	午後2時～ 午後4時
場所	一般財団法人 京都工場保健会 (〒604-8472 京都市中京区西ノ京北壺井町67番地) ※ 無料駐車場有					
予約	【要予約】電話番号：0120-636-040 (京都工場保健会 受付時間：平日午前8時30分～午後4時30分)					
検査項目	H I V、性感染症（梅毒、淋菌、クラミジア）※ 性感染症は単体受検不可					
結果返却	面接にて返却（H I Vは即日、性感染症はおおむね2週間後の検査日）					

詳しくは、京都市情報館「京都市のHIV検査・相談について」をご覧ください。

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html#HIVkensa>

京都市情報館

二次元コード



### （参考）梅毒について

#### （1）原因、特徴

梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされる感染症で、主にセックスなどの性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。オーラルセックス（口腔性交）やアナルセックス（肛門性交）などでも感染します。また、一度治っても再び感染することがあります。

#### （2）予防方法

予防方法として、感染部位と粘膜や皮膚が直接接触をしないように、コンドームを使用することが勧められます。ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などでも感染が起こる可能性があるため、コンドームを使用しても、100%予防できるわけではありません。感染しているかどうか心配なときは、検査で確認することができます。

#### （3）治療について

処方された抗菌薬（内服薬や注射薬）で治療します。内服期間等は病期により異なり、医師が判断します。病変の部位によっては入院し、点滴で抗菌薬の治療を行うこともあります。医師が治療を終了とするまで、処方薬を確実に服用し続けることが重要です。

<お問合せ先>

京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課

電話：０７５－２２２－４２４４